

分科会

「～事例報告に入る前に～ホール・劇場の役割」

コーディネーター

アートサポートふくおか 代表 古賀 弥生

この分科会はホールや劇場の関係の文化ボランティアの活動について事例の報告をいただきつつ、その現状と課題というのが今日のテーマとなっているので、ここにご参加の皆さんとお話ができるといいなという風に思っています。というのは先ほどの田中さんからの基調報告にもありましたが、今日3つ分科会がある中で図書館・読み聞かせ関係、歴史・街めぐり関係、ホール・劇場系の3つのうち、ホール・劇場系に関しては組織化・自立という面では一番緩いという的確なご指摘がありました。その通りだなと思いついて、他の2人のコーディネーターの方と話していたんですけども、ほかのジャンルではきちんと組織化がされているとか、それぞれの活動の内容を記したパンフレットだとか、そういったものを作っておられるんですね。それで今日のような場があるときに、個別の団体だけでなく連絡協議会の活動を含めてお話いただくことができるんですが、それに比べますとホール系のボランティアの活動はそれぞれの施設でいろいろな取り組みをされているとは思いますが、全体的な把握ができていませんし、誰も県内全域の全部の事例を知っている人がいないのではないかなという状況です。それでこういう風に関係者の方が一室に集まるというのは非常に貴重な場ではないかなと思います。出来れば事例報告に関するリアクションでも構いませんので、県内にこんな方たちがいらっしゃるんだなというのを知る場にもなるといいなと思っています。90分という短い時間なので何人もいらっしゃる人たちの間のネットワーク作りまではいかないかもしれませんが、その最初のきっかけになるといいかなと思います。

このあとおふた方から事例報告をしていただくのですが、それに先立って少し私のほうからお話をさせていただきます。

その話というのは、文化施設・文化ホールとまち・地域との関係ってなんだろう、地域における文化施設の役割というのをまず整理しておいて、その中でホールに関係する文化ボランティアさんというのはどのような役割を期待されていて、どんな活動がおこなわれているのか、というふうに頭の中を整理していただければいいかなと思って、私なりの考え方ですが、まずは文化ホールの地域における役割ということについて少しお話ししたいと思います。

文化ホールには大きく分けて2つ役割があるんじゃないかなと思います。一つは文化による地域振興、それから文化そのものの振興、この二つです。

文化振興というのは文化を元気にすることですね。文化というところがすごく幅広いですが、文化ホールについて言えば、音楽や演劇とか実演系ですね。ステージを使った主に舞台系を中心としたものとなると思うんですが、そういった文化・芸術というものを元気にしていく。文化・芸術はそれぞれが価値があるものなので、人が人たるゆえんといいますか、それがあからこそ人間だと言えるものだから、文化や芸術を盛んにしていくこと、まだその魅力を知らない人に魅力を伝えていったり、魅力的だと思っている人にその楽しさを広げてもらうような役割がホールにはあります。これが「文化振興」ですね。

もう一つ、文化による地域振興なのですが、これは最近ここ10年ぐらいですか、特に

文化ホールの役割として注目をあびつつあるものです。これは教育や福祉、まちづくりと関連して文化や芸術が持っている力が人を元気にして社会を元気にしていく、というのがだんだん知られ始めてきたんですね。例えば学校教育の中に音楽・演劇・美術・ダンスなど、文化や芸術のプロフェッショナルな方が出かけて行って、通常の学校の先生では出来ないような体験型の授業を行なう、これは教育に対する貢献ですが、そういったものもホールがやりますという例も沢山あります。

それから教育だけではなく福祉ですね。児童施設・福祉施設に対して芸術家と一緒にホールがでかけていく、そういったこともあると思います。そういった活動が将来ホールのお客様を増やすということにも繋がるかも知れませんが、ホールに足を運ぶことができない方たちに対してどうやって文化と接する機会を提供するのか、という特に公の施設であればどうしても担わなければならない責任があると思います。地域に出かけて行って人を元気にしていくということです。それと、まちづくりといったのは、例えば場合によっては文化施設・文化ホールというものが観光資源の一つになる場合もあります。それから人を元気にしていくことからその元気になった人がその地域の振興に活躍するような人材になっていくということもあるんじゃないかと思うのです。すごく大きな目標かなと思います。文化ホールが地域でおこなわなければならないことの目的の一つというのは、よき市民を文化を通じて育成することではないかと私は思っています。よき市民というのは例えば平和を愛して町を愛して人を愛するという人で、自分達の町のこと地域のことを人ごとだと思わないで自分のこととして真剣に考えて行動する、そういう市民のことだと思っています。何々市に住んでいるから自動的に市民というわけではなくて、もっと新しい意味合いで自分の町のことを自分でどうにかしようとするという人、筋金を持って自分で行動する人のことがよき市民かなと思います。文化というものがそういうよき市民を育成する礎になるというか力になる部分は非常に大きいんじゃないかと思っています。

そういう役割も実は文化ホールにはあるんですね。必ずしもコンサートとか演劇の公演などを沢山やることばかりではない。文化を鑑賞するとかそういう場をつくることも大切なのですが、それだけではなくて特に地域に密着した市町村の施設であればなおのこと、その地域を文化でもってどれだけ元気にしていけるか、「市民」をどれだけ作り出していけるかというのが文化ホールの新しい役割になっていっているんじゃないかと思っています。

そう考えると、昔に比べると今の文化ホールというのは役割が拡大してきています。そういう拡大する役割に対してじゃあ予算が増えているか、スタッフが増えているか、というところでは必ずしもないというのが現状です。そうすると、スタッフの方だけですべてを担う、ホールのイベントはやるわ、それ以外のいろいろな事業もやらなければいけないわ、そしてホールの中だけが仕事場じゃなくて外にも出ていかなければいけないわというのは大変なことです。そこで期待が集まっているのが文化ボランティア、市民の方の手を借りなければもうやっていけないんじゃないかということなんですね。具体的にこれから事例の報告がありますが、館内のホールやいろいろな施設・設備を使ったイベントをおこなう際のお手伝いをしてくださる、という意味の文化ボランティアというのが非常にオーソドックスな形ではないかと思っています。さきほどとびうめの会さんのご報告がありました。アクロス福岡で受付をしていらっしやったりしている写真がありましたね。ああいったチケットもぎりであるとかパンフレットを配ったりとイベントをやれば必ず人

手が必要になってくるので、その人手というのを担ってもらえるボランティアさんというのは大変ありがたいです。その活動もとても重要ですが、そこから先ほど申し上げた文化による地域振興という役割を果たせる人材というのがどれだけ出てくるかというと、少し距離があります。まちづくりまでやっついこうかというようなボランティアさん、ここまできるとボランティアというのでしょうか、ボランティアという言葉のイメージから少し離れているかもしれませんが、文化ホールがもっている施設であるとかあるいはスタッフの方というような資源を使って、自ら自分達の町のことを考えて行動していくよき市民の方が現れてくるような、そういう背中を押すようなことが文化ホールで今始まりつつあります。

幅広い文化ホールの文化ボランティアの活動の中で、今日はお二方から二つの自治体ホールでの事例をご紹介しますが、役割が幅広くて今後の展開もいろいろ考えなければならぬことが多々ある文化ホールにおける市民の方の関わり、そういう視点でお聞きいただければありがたいかなと思います。